

## — 気象講演会雑感 —

### 平成3年度北海道支部気象講演会雑感

札幌管区気象台 藤山 興二

平成3年10月22日（火）旭川気象講演会が開催された。

従来、“地方講演会”と言う名称で行ってきたが、理事会において、“地方”という言葉は（地方に）失礼に当たるので、止めることとなり、今年から「気象講演会」という名称になった。開催地については、毎年、頭を悩ますことの一つだが、担当理事の努力で、旭川地方気象台と折衝の結果、開催地は旭川市と決定した。

事務局の設置をは開催地の旭川地方気象台佐藤隆防災業務課長にお願いし、快く引き受けていただき、支部事務局としても、ホッと胸をなでおろすとともに、心強い現地事務局スタッフを思い浮かべ、開催前に、これで大成功と確信した。

講師の方々は、開催地の大学と気象台から2名、もう1名は札幌にある北海道大学からと定め、次の三方にお願いし、快諾を得た。

|             |    |        |
|-------------|----|--------|
| 北海道教育大学旭川分校 | 主事 | 桜井 兼市氏 |
| 旭川地方気象台長    |    | 菊地 弘明氏 |
| 北海道大学低温研究所  |    | 兒玉 裕二氏 |

後援団体は、現地で折衝して下さり、旭川市・気象協会など4か所が順調に決定した。次に、講演会のタイトルで、二転三転した。

当初は、“道北の気象と地球環境問題”と、予定していたが、現地で報道機関にPRしてもらうには、少々固いのでは・・・と、いうことになり、市民の皆さんに親しみやすいタイトル“最近の気象と気候の話題”とし、それに副題として“いま、地球と語るとき”を付すことが現地事務局から提案され、決定した。

さて、当日は、兒玉講師、北出担当理事と同行し、札幌からJRで旭川入りしたが、山は白いものをかぶっているものの、コート不要の日和で安心した。

会場の旭川市民文化会館は、市の中心部にあり、当日は気象講演会の他に、チャリティバザーやら文化祭の催物など三つがあり、玄関前に立看板4本が並んでいた。

市民の皆さんはどこへ入ろうかと迷ったことと思うが、結局は、盲導犬を連れた方、気象庁OB4人などを含む約120人の方々が、気象講演会のために参加して下さり、動員された人でない、純粋に講演を聴きに来て下さった人々ばかりの講演会は迫力があつた。

会は、北出講演担当理事が開会の挨拶として、講演会の意図するところ、講演内容、気象学会の紹介、開催に当たって関係者への謝辞を述べた後、講演に入った。

講演内容は本誌112ページに掲載されているので省くが、各講師とも現地に合った演題をステージの壁いっぱい映し出したカラーのOHP・スライドを駆使して、予定時間をオーバーするほど熱心に講演して下さい、また、会場の方々からは活発な質問が多く出て、演壇と会場が一つになった感があり、司会としても、出来るならもっと時間をとって、会場の方に応えたいほどであった。

今回は、質疑応答の時間を5分間しか取らなかったが、今後は、もっと積極的にこの種の時間を生み出すようにすべきであろう。

最後に、旭川地方気象台の職員、とりわけ、佐藤課長の率いる防災業務課の皆様には、会場・後援機関設定、広報活動などの事前準備から、講演会当日、懇親会まで、全面的にご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。